microcosm
kan kaoru
菅 かおる

Gallery PARC
GRAND MARBLE

私は水をモチーフに描き続けています。
生命ある水の神秘、力強さに魅かれているからです。
私の描く絵の中では自然が生み出した豊かな曲線も法則的な直線も、等しく有機的なひとつの世界に包み込まれています。
水に映し出される、色彩の美的で根源的な感覚を作品に注ぎたいと思っています。

菅 かおる

菅 かおる
Kan Kaoru

大分県生まれ
現在、京都と福岡を拠点に制作活動中
千住 博に師事
2000　京都造形芸術大学　美術科　日本画コース卒業
2004〜2005　京都造形芸術大学 国際藝術研究センターフェロープログラム フェロー

近年のおもな展覧会
2022 - NEW INTIMACIES -WILD WILD WEST-（Gallery PARC / 京都）
2021 - 個展「菅かおる展〜神秘的創造の世界〜」（大丸神戸店 / 兵庫）
- 「Never the Same Ocean -あるいは、46億年目のミューテーション-」（HAGIWARA PROJECTS / 東京）
- 「グループホライゾン」（高島屋 / 東京・神奈川・大阪・京都）
2020 - 「NEW INTIMACIES」（KAYOKOYUKI / 東京）
2019 - 個展「光と海」（真宗佛光寺派 長性院 / Gallery PARC）
- 個展「-水の環-」（大丸福岡天神店 / 福岡）
- 個展「-水の環-」（東武百貨店池袋店 / 東京）
- 「グループホライゾン」（日本橋高島屋 / 高島屋横浜店 / 高島屋大阪店 / 高島屋京都店）
- 「京宵展2019」（京都美術倶楽部/京都）
- 「〜NEXT WAVE〜 次世代アーティスト展」（GINZA SIX Artglorieux/東京）
- 「咲麗」（gallery seek/東京）
- 「日本画新展 特別展覧会@二条城」（二条城/京都）
2018 - 個展「-環の中の永遠-」（Gallery Seek/東京）
- 「二人展-菅原百佳・菅かおる-」（永井画廊/東京）
- 「アートフェアアジア福岡2018 ART FAIR ASIA FUKUOKA 2018」
- 「銀河の会」（あべのハルカス/大阪）
- 「第６回京宵展」（京都美術倶楽部/京都）

ほか多数

作家HP

Gallery PARCでの過去の展覧会情報

Gallery PARC オンラインストア

菅かおる（かん・かおる／1976年・大分生まれ）は、これまで「水」をモチーフに、写生に基づく正確な描画力をベースに、伝統的な日本画における画材や技法に根ざした絵画制作により、多くの個展・グループ展などによる作品発表など、積極的な活動を続けています。

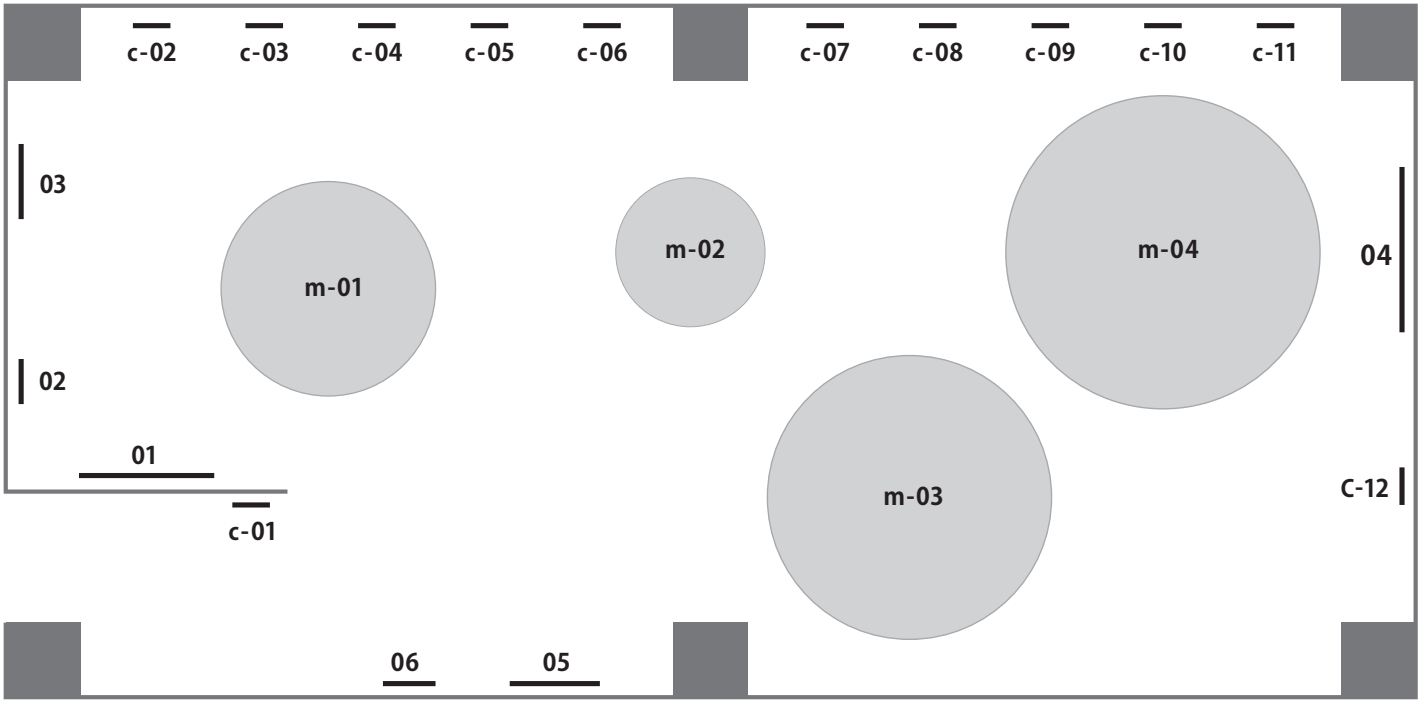
水鉢や金魚鉢を覗き見て、水中に広がる水景色を描いた作品や、水面にうつる光の景色、そこに浮かぶ花々を描いた作品などは、いずれも緻密な描写に菅の想像の線や景を交えることで、「水のある景色・水に見る景色」を描き出した作品といえます。また「AQUA」や「Origin」などのシリーズは、「水」への興味や好奇心を出発点に想像を突き詰めるなかで、そこに「小宇宙」のような景色を見出したものであるといえます。そこには自由奔放な曲線や、幾何学な直線が描かれますが、**「私の描く絵の中では自然が生み出した豊かな曲線も法則的な直線も、等しく有機的なひとつの世界に包み込まれています」**と語るように、菅にとっての「水のある景色・水に見る景色」とは、いわば「水＝生命」として、それらが満ちて拡がる様相をひとつの宇宙として描き出しているともいえます。

また同時に、菅は岩絵具や箔などの日本画材や技法からアプローチした絵画制作にも熱心に取り組みます。たとえば偶然性を借りて画面に様々な色面を生じさせ、そこに見出した平面性・空間性を手がかりに進める絵画制作や、岩絵具や箔などの日本画材と光との関わりを眼差した発表などに取り組んでいます。とりわけギャラリー・パルクでのこれまでの個展では、いずれも菅の「日本画」への興味や解釈を進めるような展開がなされてきました。

2014年の個展「アクロス ザ ユニバース」では、襖サイズのパネルに描いた日本画を「16曲の屏風」に仕立てて空間に走らせることで、全長14メートル・表裏32もの画面によるコンポジションに取り組みました。2019年の個展「光と海」では、「絵画と空間」を焦点に、寺とギャラリーの2会場に作品を展開。それぞれに蝋燭や自然光、あるいは舞台演出用の照明器具などを用いることで、日本画と空間、日本画と光との関係が、どのような絵画鑑賞（体験）をつくり出すのかについて興味深い取り組みを続けています。

ギャラリー・パルクでは3回目となる本展は、そのタイトルを「microcosm（小宇宙）」として、菅が描き出したひとつひとつの「小宇宙」としての絵画を発表する機会であるとともに、菅の描き出す「浮遊感、重力からの解放」、「水と宇宙の繋がり」を展示空間での鑑賞体験の中にも織り込んでみようとするものです。そのための新たな要素として、本展で菅はモビール制作に取り組みます。

色彩や光が固定された座標を離れて、空間を自由に漂うモビールは、光との関わりによって表情を変える日本画材の特性を活かす作品の在り方であるともいえます。また、重力から解放された色や光が空中を漂うヴィジョンは、菅の描き出す画中の世界にも似たものであり、鑑賞者にあらたな鑑賞（絵画）体験を提示するものとなるのではないでしょうか。



01	**AQUA（sound of the deep sea）**	2022	雲肌麻紙, 岩絵具, 箔	1167×1167mm
02	**Origin（黄金の三角形と星の交信）**	2022	雲肌麻紙, 岩絵具, 箔	455×333mm
03	**Origin（光の生成）**	2019	雲肌麻紙, 岩絵具, 箔	910×727mm
04	**海から生まれる**	2015	雲肌麻紙, 岩絵具, 箔	1620×1303mm
05	**AQUA（blue）**	2022	雲肌麻紙, 岩絵具, 箔	727×727mm
06	**AQUA（Twisted lines）**	2022	雲肌麻紙, 岩絵具, 箔	333×333mm

c-01	**circle（black sun）**	2023	雲肌麻紙, 岩絵具	Φ280mm
c-02	**circle（lunar eclipse）**	2023	雲肌麻紙, 岩絵具, 箔	Φ280mm
c-03	**circle（stars）**	2023	雲肌麻紙, 岩絵具, 箔	Φ280mm
c-04	**circle（black）**	2023	雲肌麻紙, 岩絵具	Φ280mm
c-05	**circle（peacock）**	2023	雲肌麻紙, 岩絵具, 箔	Φ280mm
c-06	**circle（thunder）**	2023	雲肌麻紙, 岩絵具, 箔	Φ280mm
c-07	**circle（sea scape）**	2023	雲肌麻紙, 岩絵具, 箔	Φ280mm
c-08	**circle（particle）**	2023	雲肌麻紙, 岩絵具, 箔	Φ280mm
c-09	**circle（crossing of light）**	2023	雲肌麻紙, 岩絵具	Φ280mm
c-10	**circle（gold）**	2023	雲肌麻紙, 岩絵具, 箔	Φ280mm
c-11	**circle（spiral）**	2023	雲肌麻紙, 岩絵具, 箔	Φ280mm
c-12	**circle（blue）**	2023	雲肌麻紙, 岩絵具, 箔	Φ280mm

INSTALLATION

m-01〜04	**microcosm**	2023	雲肌麻紙, 岩絵具, 箔	サイズ可変